

パネルディスカッション4

「高齢者炎症性腸疾患における治療選択とリスクマネジメント」

司会 穂苅 量太（防衛医科大学校消化器内科）

小林 拓（北里大学北里研究所病院炎症性腸疾患先進治療センター）

従来は若年者の病気と考えられてきた炎症性腸疾患であるが、社会の高齢化を背景にした高齢発症患者の増加とともに若年発症患者も長期経過例が高齢化し、高齢患者の診療に直面することが増加した。最近では、高齢発症患者と（非高齢発症）高齢化患者、そして非高齢患者が、必ずしも年齢に起因する因子だけでなく、治療反応性にも差異がみられるという報告も散見されるようになってきた。本セッションでは、高齢者炎症性腸疾患における治療選択やリスクマネジメントについて、内科・外科双方からの視点も交えて議論したい。